

ニシキゴイの品質改良に関する研究—III

浅黄、秋水の形付魚の出現率

岡崎 稔・宇野康司・都竹仁一

Studies on the Artificial Selection of Coloured Carp—III.

On the Appearance of Characteristic

Asagi -Carp and Syunsui -Carp.

MINORU OKAZAKI, YASUSI UNO, NIICHI TUZUKU.

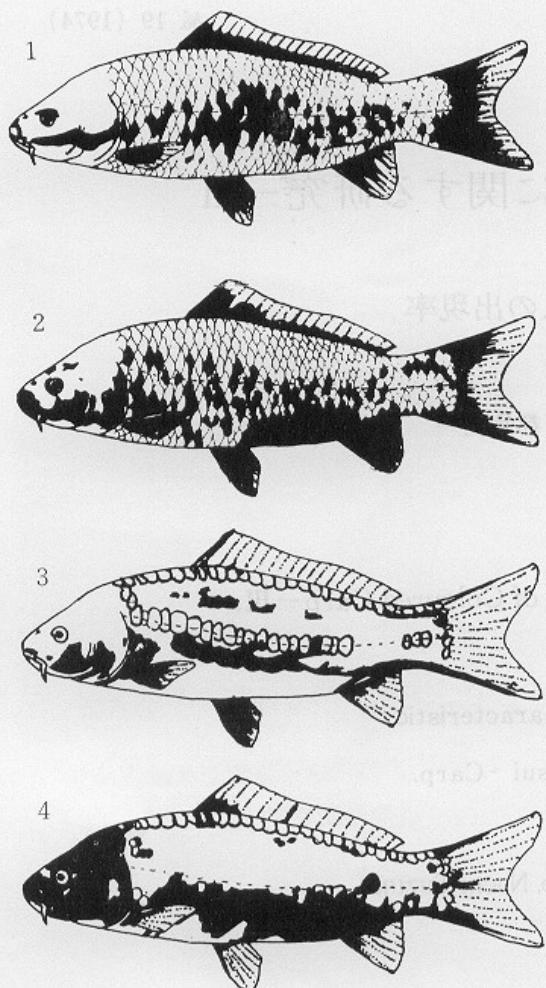
¹⁾ 前報で白写り、緋写りの形付魚の出現率について報告した。本報では、浅黄、秋水の形付出現率について報告する。

試験の方法

- 試験期間；1972年6月1日～10月17日
- 供試魚；第1回に示した4尾の親魚(1972年5月新潟県より導入)を用い、同品種間で雌雄1対1の交配を行ない、産卵ふ化させた。そのふ化仔魚を浅黄区約3,000尾、秋水区約1,500尾を用いた。

3. 飼餌料；培養池に前もってミジンコを繁殖させておき、ふ化終了後各飼育池にポンプを用いて水とともに導入した。ミジンコを食べつくした時点で、コイ用市販飼料に切換えた。

4. 選別；鱗型の分類は、大和鱗…一般の大和コイに見られる鱗(普通鱗)。石垣鱗…大和鱗に崩れを生じたもので、体側全面に鱗はあるが、大和鱗ほど整然でなく大きさも不規則である。カガミ鱗…大形鱗が背部、腹部、側線上に散在しているもの。ライン鱗・カガミゴイの中で側線上の鱗が整列しているもの。カワ鱗…背、胸、腹、尻、尾の各鰭基部に大形鱗が僅かに散在するか、全く存在しないもの、に別けた。8月21



第1図、親魚の形態

1. 浅黄、雄魚、5才；2. 同雌魚、4才；3. 秋水、雄魚、5才；4. 同雌魚、
注、1. 黒色斑は赤色を示す；2. 浅黄雄魚は全体、秋水雌魚は頭部のみ鮮明な赤色を帶び、
外は橙色がかった赤色である。

日と10月17日の2回選別を行ない、浅黄については、青色のみ、赤色部分の少ないもの、赤色部分の過多のものおよび奇形魚を淘汰した。秋水については、カワ鱈、ライン鱈以外を全て淘汰し、更に両型の中でも青色のみ、赤色部分の少ないものおよび奇形魚を淘汰した。

5. 試験池；長さ18m×幅5m×水深0.6mであった。

結果及び考察

第1次選別結果は、第1表に示したとおり、浅黄区は取上尾数1,577尾に対し、選抜魚415尾(26.3%)で、淘汰魚の92%が青色のみか、赤色部分の少ないもので占められていた。秋水区は、取上尾数822尾に対し、選抜魚179尾(21.8%)であった。カワ鱈、ライン鱈以外の淘汰魚が73.1%を占めた。カワ鱈、ライン鱈の淘汰魚は、両者ともに青色のみ、赤色部分の少ないものが殆んどで、前者が95尾中55尾(57.9%)、後者が257尾中118尾(45.9%)、であった。

奇形魚は、秋水区134尾(16.3%)、浅黄区58尾(3.7%)で秋水区が多かった。奇形魚の殆んどが尾柄部の湾曲、頭部の変形した魚であった。

秋水区の鱗型の出現状況は、第2表に示したとおり、大和鱈26.2%、ドイツ鱈73.8%であった。なお、浅黄区は全て大和鱈でドイツ鱈は見られなかった。

第2次選別結果は、第3表に示したとおり、浅黄区は形付魚121尾(形付率7.7%)、秋水区は40尾(形付率4.9%)であった。秋水区の形付魚の鱗型は、カワ鱈17尾、ライン鱈23尾であった。

両区の淘汰魚は、赤色部分の褪色および赤色部分が黒味がかったものが多かった。なお、浅

第1表 第1次選別結果(8月21日)

試験区	区分	取上尾数	出現率	平均体重	
	選 抌 魚	尾	%	g	
浅	淘汰魚小計	415	26.3	7.2	
黄	内 訳	青色のみ 赤色部分の 少ないもの 赤色部分の 過多のもの 奇 形 魚	467 597 40 58	29.6 37.9 2.5 3.7	7.3 6.0 7.5 6.2
	合 計	1,162	73.7	6.6	
秋	カワ鱗 ライン鱗	40 139	4.9 16.9	10.0 11.0	
	選 抌 魚 小 計	179	21.8	10.8	
	淘汰魚小計	1,577	100	6.8	
水	内 訳	カワ鱗 ライン鱗 奇 形 魚	40 139 40	10.0 11.0 8.1	
	合 計	643	78.2	10.7	
区	大和鱗 石垣鱗 カガミ鱗 奇 形 魚	180 42 114 55 118 134	21.9 5.1 13.9 6.7 14.3 16.3	11.7 12.1 11.4 9.6 11.4 8.1	
	合 計	822	100	10.7	

注 出現率は、第1次選別の取上尾数に対する比率である。

第2表 秋水区の鱗の出現状況(8月21日)

品種	大和鱗	ド　イ　ツ　鱗				合計
		石垣鱗	カガミ鱗	ライン鱗	カワ鱗	
出現尾数	180 尾	42	114	257	95	508 尾
出現率	26.2%	6.1	16.6	37.3	13.8	73.8%

注 奇形魚 134尾は除外

第3表 第2次選別結果(10月17日)

試験区	区分	放養尾数	取上尾数	形付率	平均体重	
					尾	%
浅 黄 区	形付魚	415	121	7.7	15.9	
	淘汰魚		238		22.9	
	合計	415	359	7.7	20.5	
秋 水 区	形付魚	179	40	4.9	37.8	
	淘汰魚		94		29.0	
	合計	179	134	4.9	31.7	

注 形付率は、第1次選別の取上尾数に対する比率である。

黄はこれらの外に浅黄色が黒味がかったものが見られた。

浅黄区には、他品種の出現がみられず、全数大和鱗であった。

は浅黄区 7.7%，秋水区 4.9% であった。

3. 淘汰魚の多くは、赤色部分の褪色もしくは黒味がかったものの外浅黄色の黒味がかったものが見られた。

4. 秋水区の鱗型の出現状況は、大和鱗 26.2%，

トイツ鱗 73.8% で、浅黄区は全て大和鱗であ

要 約

1. 浅黄、秋水の同品種間雌雄 1 対 1 の交配による、形付魚の出現率を調査した。

2. 期間中 2 回の選別を行なった結果、形付率

文 献

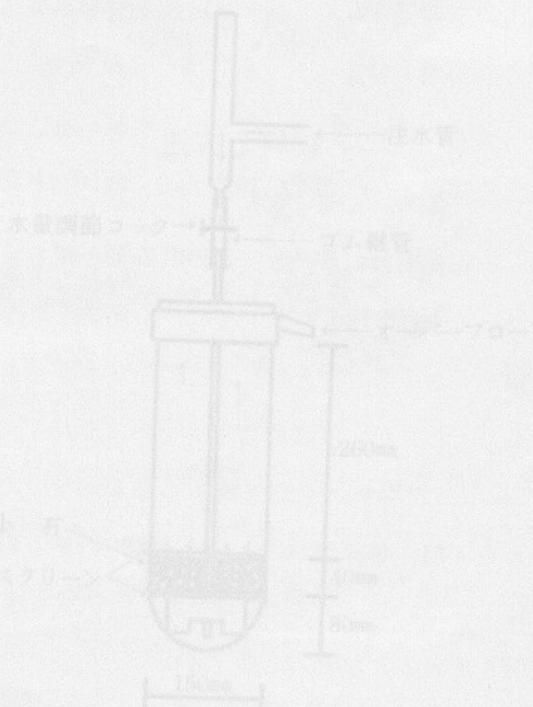
びん型ふ化器について

寺島繁夫・田口錠次

Test of the Incubator of Jar-type

TANOSHIMA, ISAO & TANIGUCHI,

今までに開けるまでの一般的なふ化器は、盤式 (Whittemore 式ふ化器) または Acheson 式が使用されているが、最近 Busch 等によって考案された Jar culture に類似したふ化器が市販されたので、本日使用テストを行った。このふ化器の構造上の特異点は、前記の二つが箱式もふ化器と同様を取扱するふ化槽の二部分で構成されてい



第2圖 ふ化器の構造と寸法